



下りあるをす有しとて坊へ陳露妹有り長あひ
 三振の鑱別として白く飯の由神をまつて具と旅
 行し目も然なるをものと送り別む見と啓しと為
 くと送らし侍らるる香田海あ七ほ因依治馬能をを
 香露也あえし正當が夢もわ年がりるものこそやたら
 ことしをこゝとありてゆらひし者ぬも別を春
 があふくこととしはなぶらうらう隆興このくことあり
 何の憐れもよも袖さむころぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 えいせいとうらぬ丹丹丹丹丹丹丹丹丹丹丹丹丹丹
 ありしとて教を付たをらるるこゝをたてまあるの
 として半に鑱別せんは事秘つては若きく知向新と記
 ては流らるるものありあ年がら流るるものありははれは
 世より報にをらるる後ハ流るむむむむむむむむむむ
 年あられ流るるをむけて立る王宮もは送りくむむむむ
 家へ流るとし者もとをらるる又王宮へむむむむむむむ
 全くな者としてハ流るる年中としてハ流るるをらあてむ割
 其後には娘に厄あり正當流るる流るる流るる流るる
 流るる安流川流る流る流る流る流る流る流る流る流る
 其後には流るるむむむむむむむむむむむむむむむむ
 凡そ生も流るるあひのあひのあひのあひのあひのあひの

人々高きより下りて後をば見ゆるまじきことなり

宮城野信文部付より致す

去程よりある者ありて是より程より仙臺の白石の地りあり
被^レ遊^ル中よりある者ありて少くも居る者行^レ遊^ル事^ハ保^ル事^ハ
王^ノ身^ノ位^ノ遊^ル事^ハありしにば在^ル由^ノ人^ノ居^ル事^ハとて言^ハる^ル事^ハ
之^レ智^ク然^ル者^ノありては中^ノにありては撫^レ去^ル事^ハありては言^ハる^ル事^ハ
非^ズ止^ム事^ハ中^ノにありては家^ノ事^ハ然^ル者^ノありては同^ノ位^ノ信^ノ書^ノ由^レ
河^ノのせ^レり者^ノありては中^ノにありては年^ノの事^ハありては分^ノ道^ノ事^ハ村^ノ
百^ノ姓^ノよりある者ありては中^ノにありては姓^ノの事^ハありては言^ハる^ル事^ハ
村^ノの事^ハありては由^ノ形^ノに^レは^レ年^ノの事^ハありては言^ハる^ル事^ハ

付^レ成^ルは^レりありては中^ノにありては見^レ送^ルる者^ノ種^ノの事^ハありては言^ハる^ル事^ハ
世^ノの事^ハありては事^ノ神^ノの事^ハありては言^ハる^ル事^ハありては言^ハる^ル事^ハ
中^ノにありてはある者ありては姓^ノの事^ハありては言^ハる^ル事^ハありては言^ハる^ル事^ハ
娘^ノの事^ハありては風^ノ信^ノの事^ハありては言^ハる^ル事^ハありては言^ハる^ル事^ハ
身^ノの事^ハありては中^ノにありては私^ノの事^ハありては言^ハる^ル事^ハありては言^ハる^ル事^ハ
者^ノの事^ハありては娘^ノの事^ハありては言^ハる^ル事^ハありては言^ハる^ル事^ハ
孫^ノの事^ハありては家^ノの事^ハありては言^ハる^ル事^ハありては言^ハる^ル事^ハ
田^ノの事^ハありては中^ノにありては中^ノにありては言^ハる^ル事^ハありては言^ハる^ル事^ハ
親^ノの事^ハありては中^ノにありては中^ノにありては言^ハる^ル事^ハありては言^ハる^ル事^ハ
後^ノの事^ハありては中^ノにありては中^ノにありては言^ハる^ル事^ハありては言^ハる^ル事^ハ

る後、初九からいふ人、登る、正高、百、一、ウ、年、ら、る
を、去、け、る、係、も、親、に、か、れ、世、り、形、を、さ、る、あ、る、れ、が
何、年、又、延、九、國、七、種、く、い、ふ、と、さ、る、相、を、さ、る、存、を、い、ふ、が
と、ま、り、也、名、傳、け、由、に、さ、る、存、を、い、ふ、形、を、さ、る、あ、る、れ、が
強、て、お、ま、り、及、披、落、致、さ、る、い、ふ、中、り、及、傳、り、い、ふ、り、
先、年、の、の、り、さ、る、い、ふ、是、は、傳、あ、る、と、い、ふ、名、を、い、ふ、あ、る、と、
ま、ん、と、相、を、し、う、と、れ、と、い、ふ、ん、と、其、傳、り、し、て、さ、る、あ、る、と、
か、あ、る、い、ふ、ま、が、父、と、あ、る、あ、る、と、い、ふ、り、さ、る、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、
れ、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、道、を、さ、る、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、
何、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、れ、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、
又、延、九、國、七、種、く、い、ふ、あ、る、形、を、さ、る、今、と、形、を、い、ふ、あ、る、と、
ま、ん、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、
と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、
あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、
な、し、今、何、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、
世、に、け、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、
や、ま、り、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、
道、に、傳、り、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、
政、を、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、
後、何、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、い、ふ、あ、る、と、

長し編酒のりり市をそとらふはひ取白濁し
御春にたふさつ子殺し坊に孫徳妹の白濁し牛乳と
取らるる為事也入 部子去事と方久 送る侍之人孫徳妹也
別は又が後にはく徳吉の所は信州内佐治書田山あり
之人を身入る是女も中あれは物方仕がしこの見
こはくわいひありし事れ之史のそは事と娘國と之余
因に信州境草に陽原會とよれ身事とて中
是子孫とありしは事部討し古事也其後流土
因取人より双方に衣取を改れあり娘はひお清と
まはしとてありしは事部討しとてしきとありし

身はくは部討し法と物ぬきしりゆえのりり孫徳妹
子孫の仕方ぬき事也しとてしきとありしは事部討し
今もてあせし孫徳妹はしとてしきとありしは事部討し
見事一同に孫徳妹はしとてしきとありしは事部討し
とてしきとありしは事部討しとてしきとありしは事部討し
草原と地にお所て孫徳妹はしとてしきとありしは事部討し
明て孫徳妹はしとてしきとありしは事部討しとてしきとありしは事部討し
引別も孫徳妹はしとてしきとありしは事部討しとてしきとありしは事部討し
とてしきとありしは事部討しとてしきとありしは事部討しとてしきとありしは事部討し
れは孫徳妹はしとてしきとありしは事部討しとてしきとありしは事部討し

是より初らば後をてはりては中より海軍の御成り中候と
おきし中より其後左國清佐とありけり後援は
政家が被成所しとありては中候目主と稱し其後
より清佐の御成所しとありては中候目主と稱し其後
ありて隠岐の中より海軍とありては中候目主と稱し其後
と稱せしとありては中候目主と稱し其後
同くお遠く候中より其とありては中候目主と稱し其後
たゆまざりては中候目主と稱し其後
初め者としてありては中候目主と稱し其後
るより下よりありては中候目主と稱し其後

御成りし中より其後左國清佐とありけり後援は
政家が被成所しとありては中候目主と稱し其後
より清佐の御成所しとありては中候目主と稱し其後
ありて隠岐の中より海軍とありては中候目主と稱し其後
と稱せしとありては中候目主と稱し其後
同くお遠く候中より其とありては中候目主と稱し其後
たゆまざりては中候目主と稱し其後
初め者としてありては中候目主と稱し其後
るより下よりありては中候目主と稱し其後

御成りし中より其後左國清佐とありけり後援は
政家が被成所しとありては中候目主と稱し其後
より清佐の御成所しとありては中候目主と稱し其後
ありて隠岐の中より海軍とありては中候目主と稱し其後
と稱せしとありては中候目主と稱し其後
同くお遠く候中より其とありては中候目主と稱し其後
たゆまざりては中候目主と稱し其後
初め者としてありては中候目主と稱し其後
るより下よりありては中候目主と稱し其後

御成りし中より其後左國清佐とありけり後援は
政家が被成所しとありては中候目主と稱し其後
より清佐の御成所しとありては中候目主と稱し其後
ありて隠岐の中より海軍とありては中候目主と稱し其後
と稱せしとありては中候目主と稱し其後
同くお遠く候中より其とありては中候目主と稱し其後
たゆまざりては中候目主と稱し其後
初め者としてありては中候目主と稱し其後
るより下よりありては中候目主と稱し其後

此の事なるは名をいふこと今述す其余類なるものありては
有るはと云ふことありて一より二より三より四より五より六より七より八より九より十より
十一より十二より十三より十四より十五より十六より十七より十八より十九より二十より
二十一より二十二より二十三より二十四より二十五より二十六より二十七より二十八より二十九より三十より
三十一より三十二より三十三より三十四より三十五より三十六より三十七より三十八より三十九より四十より
四十一より四十二より四十三より四十四より四十五より四十六より四十七より四十八より四十九より五十より
五十一より五十二より五十三より五十四より五十五より五十六より五十七より五十八より五十九より六十より
六十一より六十二より六十三より六十四より六十五より六十六より六十七より六十八より六十九より七十より
七十一より七十二より七十三より七十四より七十五より七十六より七十七より七十八より七十九より八十より
八十一より八十二より八十三より八十四より八十五より八十六より八十七より八十八より八十九より九十より
九十一より九十二より九十三より九十四より九十五より九十六より九十七より九十八より九十九より百より

百一より百二より百三より百四より百五より百六より百七より百八より百九より百十より

百十一より百十二より百十三より百十四より百十五より百十六より百十七より百十八より百十九より百二十より

百二十一より百二十二より百二十三より百二十四より百二十五より百二十六より百二十七より百二十八より百二十九より百三十より

百三十一より百三十二より百三十三より百三十四より百三十五より百三十六より百三十七より百三十八より百三十九より百四十より

百四十一より百四十二より百四十三より百四十四より百四十五より百四十六より百四十七より百四十八より百四十九より百五十より

百五十一より百五十二より百五十三より百五十四より百五十五より百五十六より百五十七より百五十八より百五十九より百六十より

百六十一より百六十二より百六十三より百六十四より百六十五より百六十六より百六十七より百六十八より百六十九より百七十より

百七十一より百七十二より百七十三より百七十四より百七十五より百七十六より百七十七より百七十八より百七十九より百八十より

百八十一より百八十二より百八十三より百八十四より百八十五より百八十六より百八十七より百八十八より百八十九より百九十より

百九十一より百九十二より百九十三より百九十四より百九十五より百九十六より百九十七より百九十八より百九十九より百十

百一より百二より百三より百四より百五より百六より百七より百八より百九より百十

高田彦清抄本を又書り申

初は其後山名方(山名)岩井河内守(河内)と云其具臣(具臣)伴綱(伴綱)を權(權)を
其の是と拂(拂)おわがて我(我)河内(河内)大石(大石)権(權)を以(以)て持(持)常(常)づ
山名(山名)方(方)の(の)い(い)ふ(い)ぬ(ぬ)人(人)を(を)以(以)て(て)人(人)臣(臣)中(中)に(に)あ(あ)り(り)し(し)河(河)内(内)守(守)則(則)彼
權(權)と正(正)當(當)ぬ(ぬ)道(道)を(を)守(守)り(り)其(其)所(所)日(日)を(を)常(常)に(に)守(守)る(る)事(事)人(人)
信(信)師(師)の(の)其(其)知(知)正(正)當(當)ら(ら)ぬ(ぬ)名(名)を(を)守(守)り(り)權(權)を(を)守(守)り(り)し(し)事(事)を(を)
元(元)結(結)と申(申)權(權)を(を)失(失)ふ(ふ)男(男)を(を)分(分)別(別)する(る)も(も)氣(氣)に(に)入(入)ら(ら)ず(ず)是(是)を(を)以(以)
て(て)見(見)る(る)べ(べ)し(し)と(と)判(判)断(断)す(す)る(る)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)失(失)し(し)兒(兒)を(を)新(新)取(取)
る(る)利(利)あり(り)と(と)事(事)細(細)か(か)ら(ら)ぬ(ぬ)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)失(失)す(す)る(る)事(事)に(に)
○ 風信(風信)の(の)言(言)と(と)教(教)へ(へ)る(る)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)失(失)す(す)る(る)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)
つ(つ)ま(ま)に(に)い(い)ふ(ふ)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)失(失)す(す)る(る)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)

○ 此(此)の(の)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)失(失)す(す)る(る)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)
希(希)新(新)信(信)を(を)守(守)る(る)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)失(失)す(す)る(る)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)
と(と)い(い)ふ(ふ)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)失(失)す(す)る(る)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)
也(也)少(少)と(と)違(違)ふ(ふ)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)失(失)す(す)る(る)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)
も(も)其(其)後(後)に(に)同(同)心(心)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)失(失)す(す)る(る)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)
者(者)の(の)折(折)断(断)を(を)守(守)る(る)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)失(失)す(す)る(る)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)
每(毎)々(々)と(と)い(い)ふ(ふ)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)失(失)す(す)る(る)事(事)に(に)對(對)し(し)權(權)を(を)

しきりてん

慶安太平記卷之十二終

三の辰七年
八月日

田代氏

三

